

進路だより

第1号



令和3年 4月 8日

青森県立八戸東高等学校 進路指導部

◇73回生の進路状況

令和3年3月卒業の73回生の進路状況は、以下の通りとなりました。

★国公立大学合格（延べ）90名

（総合・学校推薦型25名、前期日程53名、中・後期日程12名）

★私立大学合格（延べ）180名 ★短期大学合格（延べ）29名

★専門学校合格（延べ）31名 ★公務員2名、自衛隊1名、就職1名



◇合格体験記

今号では、進路目標を達成した卒業生の合格体験記を紹介します。成功例や失敗例などを参考にして、目標達成の手がかりを探してみてください。（アンダーラインは進路指導部が付けました。）

※今回紹介できなかった合格体験記は「進路の手引き」（6月配付予定）で紹介します。

青森県立保健大学 健康科学部 理学療法学科合格（学校推薦型）

「受験を振り返って」

私が、理学療法学科を志望したのは、祖父が癌になったことがきっかけです。家族への負担などから、通所リハビリテーションの困難さや、在宅ケアの必要性を感じ、在宅ケアについて学びたいと考えました。その考えは青森県の医療に貢献したいという思いにつながり、青森県の医療の現状についてインターネットを使って調べました。自宅にパソコンがなかったので、放課後や昼休み、朝自習が始まるまでの時間を使ってコンピューター室で調べていました。また、土曜日や日曜日には図書館に行き調べることもありました。その情報から自分の考えの根拠となる情報を志望理由書に取り入れることで自分の思いが伝わるような志望理由書を書くことに努めました。

私が推薦入試の準備に取り組んだのは二年生の冬です。でも、もっと早く準備を始めるべきだったと後悔しています。三年生になると志望理由書や小論文の添削活動が本格的に始まります。同時に共通テストの学習や、放課後講習も入ってきます。放課後は毎日7時まで残って面接練習もしていました。また、自分の受験日の前日が期末考査だったのでテスト勉強にも追われていました。だから、推薦入試を受験したいと考えている人は志望理由書の核を考えてみるなど余裕をもって準備することがお勧めです。

私がやっていて良かったと思ったことの一つ目は、英語の学習です。小論文が英語で出題されることを知っていたので、特に英語には力を入れて取り組んでいました。私がやっていたのは、寝る前の30分間を携帯ではなく、英単語を見る時間に変えることです。そのおかげで小論文も自信をもって書くことが出来たし、なんとなく朝スッキリと起きられるようになった気がします。二つ目は施設見学や職場体験などの感想をまとめていたことです。今年は作文が新しく追加されましたが、テーマは当日発表でした。しかし、施設を見学して気づいたこと、感じたこと、施設の方の話などを見学したその日のうちにまとめていたのでそれを元に具体的に書くことが出来ました。受験時は小論文・作文の両方も時間にゆとりがありました。周りの受験生を気にし過ぎず、自分のペースで解いてください。練習の時から時間を計って書くと良いと思います。推薦入試は大変なこと多いけど、達成感もとても大きく、自分にとって良い経験ができたと思いました。

都留文科大学 教養学部 学校教育学科合格（学校推薦型）

「高校生活で大切なこと」

私が推薦受験を意識し始めたのは、一年生の冬あたりです。3校ほどに大学を絞り、どこかの大学を受験しても良いように、普段の小テストや定期テストは、成績を維持できるように心掛けていました。実際には、部活動との両立も難しく、成績の上下はありましたが、毎日何かを積み重ねる癖をつけることは出来たと思います。この癖は受験期間に必ず活きるので、学習やそれ以外の場面でも、「続ける」ということは非常に大切だと思います。そのためには、自分で時間をつくる工夫をする必要があります。私のように家で学習するのが苦手な人は、昼休みや部活動の前のすき間時間等を有効活用することをお勧めします。

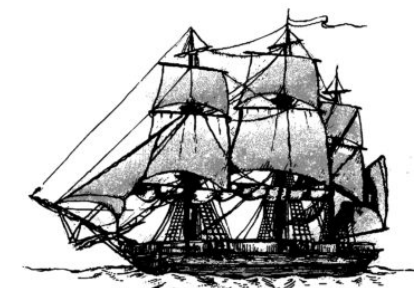
私がこの大学の推薦受験を決めたのは、三年生の夏です。学校型推薦で受験することを決めた理由は、部活動や委員会などで役職についていることが多く、ボランティアにも参加していたため、学習面以外の努力も受験に活かしたいと考えたからです。

推薦受験を決めてからは、朝と夜にニュースを見ることを日課としました。小論文を書くにあたり、社会問題を把握しておくことは必須です。ニュースか新聞は必ず毎日見るべきだと思います。また、志望理由書は大学側が目引くようなものを作成するため、大学の方針を徹底的に調べ、社会を見つめる視点を他の人と変えてみたり、他にはない自分の魅力を探して生かし方を見つけてみたりして、オリジナリティのあるものに仕上げました。具体的には、自分の得意な音楽の他方面への生かし方を考え、中学の時お世話になった先生と対談をして考えを深めました。

小論文指導が本格的に始まってからは、毎日小論文を書きました。受験科目に小論文がある人にとって、「毎日書く」ということはとても大切だと思います。毎日解くことで慣れるのはもちろん、他の人に比べ、受験までに少し余裕ができるので、自分の進路と関係の無い分野の問題にも触れ、幅広く対策することが出来ました。本番では、必ずしも自分の学科と関係のある題が出るとは限らないので、他の受験生と差をつけ、焦らないで解くためにも必要な対策だと思います。小論文は過去の自分を掘り起こし、自由に主張できる場なので、自分の体験談も含め、自分にしか書けない内容にすることが最も重要です。自分の今までの経験を、どのような場面や課題解決に繋げることができるのか、考えておくと良いと思います。その他に、自分の進む教育系の本を読んだり、ネットで教育問題について調べたりして、自分の進路に関する情報は多く取り入れるようにしました。東高は朝読書の時間があるので、家で本を読む時間がない人は、この時間に進路に関する本を読むと良いと思います。

推薦受験直前の期間は、やはり共通テストに向けた学習よりも、推薦対策に重きを置くことになってしまいます。よって、周りに遅れを取る可能性が大きいです。ここで大切になってくるのは、一・二年生の積み重ねだと思います。三年生で焦る前に、事前に備えることが一番大切です。受験はまだまだ先だと思わず、一年生から既に始まっている、くらいの気持ちで学習に取り組むべきだと思います。私は推薦対策と普段の学習の両立が上手く出来なかったもので、皆さんはテスト期間に限らず、毎日の学習を大切にして、双方が充実した受験期間を過ごしてほしいです。

このように、推薦受験は非常に大変ですが、だからこそ得るものは大きいです。合格する、しないに関わらず、これを乗り越えたことは大きな自信に繋がります。自分でもこれほど大きなことが出来る、こんなに頑張ることが出来る、という気づきを得られるとともに、自分が成長する過程で、多くの人に支えられていることを実感します。忙しい中、アドバイスをくださる先生方、一緒に頑張ろうと言ってくれる仲間、毎日の生活を支えてくれる家族など、感謝すべき人が沢山いることに気がつきます。どんなに挫けそうになっても、自分は1人ではないと教えてくれる人がいることで、私はこの受験を乗り越えることが出来ました。皆さんが受験をする日は、自分たちが思っている以上に、すぐ目の前まで来ています。どのような形態で受験をすることになっても、毎日の努力と日々の感謝を忘れず、自分を信じて突き進んでください。応援しています。



東北大学 経済学部合格（前期日程）

「花を咲かせるためには」

私が中学生の時、社会を教えていた先生がこう言った。「花を咲かせたいなら、周りの人間が環境を整えないといけない」。これは、ある高校の先生の「花は置かれた場所で咲く」という言葉を受けたものだった。植物が子孫を残すために厳しい環境であっても花を咲かせることは自然の摂理と言える。一方で、花は人間が手を加えることで鑑賞の対象となるまでの美しさを実現することもある。しかし、この広大な地球において人工的に栽培される植物はほんの僅かなものである。全ての植物が人間による好環境の構築を待っているのは、ほぼ全てが枯れてしまうだろう。かといって厳しい環境のなかで耐え忍ぶことが最善の策と言えるわけでもない。

人間はどうだろうか。植物は、厳密に言えば種子を広範囲に散布するように工夫することで生存する環境の向上を図っているが、ある1個体が自らの置かれる環境を変えられることはまずない。しかし動物である人間は、植物の不可能を可能にする。自分の自分による自分のための改善が可能なのだ。これは学習にも大きく当てはまる。皆さんは自身の成績の不振を他人のせいにしたたり、具体的な解決方法を練らずに放置したりしていないだろうか。

当時の私はあまり深く考えずに行っていたが、今振り返ると大きく役に立っていたことがある。「学校を楽しむ」ために環境を整えていたということだ。皆さんは1日の大半を学校で過ごしている。おそらくほとんどの人が授業を目的に学校に来ているわけではなく、友達に会うためだったり、ただ単に来なければならないという漠然とした感覚に突き動かされて来ているはずだ。皆さんには、学校に来る理由を具体的に持ってほしい。先程挙げたように友達に会うためという理由でも私はきっかけとしては十分だと思う。最初は友達に会うためという目的でも、徐々に目的を学習と結びつけることが重要だ。とにかく、何か具体的な学校に来る理由や目的を自分の中で設定してほしい。学校に来る理由や目的に具体性を伴わせることで、家に帰ってからの充足感は増すだろう。その充足感は学習を楽しむ余裕を与えてくれる。

私は小学校から高校に至るまで、家で自学をほとんどしなかった。しかし高校入試でも大学入試でも志望校に合格できた。私はそれを授業と宿題の成果であると胸を張って言える。聞く耳を持たなければ日中の大半を占める授業は無駄になるし、やる気を持たなければカバンをいっぱいにする宿題は紙の無駄になる。授業で学ぶためには授業を楽しむ必要があり、授業を楽しむためには授業を受けたいと思わなければならない。そのための方策として、何か一つでもいいので得意教科を作ることをおすすめする。得意教科を作れば、授業を受けなくなるし、受験の際には精神的な支柱となりうる。国公立大学を目指す人は入試科目が幅広いが、何か一つの教科に集中すると考えれば楽になるのではないだろうか。もちろんその他の教科をぞんざいに扱えと言っているのではないことを皆さんは理解しているだろう。そして、授業の復習としての宿題である。基本的にどの教科でも宿題は出されるだろうから、皆さんは授業で1回、宿題で1回、計2回同じ範囲を学習していることになる。家でしたいことは沢山あるのに宿題をしなければならぬ、ならばその宿題で学ぶものが少しでも多く有益なものでなければ割に合わないのではないか。そもそも、学校の宿題は基本的にワークやプリントという形で課される。それを作っているのは出版社などの企業である。的を射ていない教材を販売する企業が利益闘争の中を生き抜けるのか。宿題にやるだけの価値があるのは明瞭である。

以上のことが私が高校の三年間行っていた環境作りである。

簡単にまとめると、学校を楽しみ有効活用しよう、ということに尽きる。せっかくお金を払って、せっかく遊びたい気持ちを堪えて、雨の日も風の日も雪の日も学校に来て授業を受けているのだから、有意義な時間にする必要がある。きっと学校の時間は皆さんの考え方や工夫次第では人生に大輪の花を咲かせる。たくさんじゃなくてもいい。

皆さんが大きな花を自分の手で咲かせることを願う。



秋田大学 教育文化学部 学校教育課程 理数教育コース合格（前期日程）

「夢への挑戦」

私には第1志望校に合格するために、大切にしていたことが2つあります。

1つ目は、自分の大きな目標とその目標を達成するためにすべきことを考えることです。突然ですが、マンガラチャートというものを知っていますか。これはメジャーリーガーの大谷翔平選手が高校時代に行っていた目標達成シートのことです。簡単にいうと、大きな目標とその目標を達成するためにやるべきことを記したものです。私はこの目標達成シートのことを知ってから、自分なりに考えてみました。

まず、私は中学時代から中学校教師になり、数学を教えたいという大きな目標がありました。そのために必要なことは、(大前提ですが) 大学に入り、教員免許を取ることです。その目標を達成するためにいくつかやるべきことがありましたが、その中の1つである学力を身に付けることについて紹介します。私は野球部に所属していたため、7月まで練習は、平日は20時まで、週末は練習試合などで一日を部活に費やしていました。そのような限られた時間でしたが、電車での通学中や休み時間、遠征時のバスなどの何気ない日常の中の時間を活用し、学習しました。引退した後は遅れを取り戻すため、理・社の添削課題に取り組みました。皆さんの中には、将来の夢や目標がない人がいるかもしれません。しかし、「お金持ちになりたい。」「幸せになりたい」といった大雑把な目標でも構いません。目標を持つことで、今、すべきことが明確になるため、学習に取り組みやすくなります。

2つ目は挑戦することです。高校生活での最も大きな挑戦は、推薦入試だと考えています。私の受けた推薦入試は共通テスト後すぐに面接があったため、両立が難しく、私の場合は共通テストに向けての学習にウェイトをかけすぎてしまい、面接では上手く相手に伝えることができず、不合格でした。しかし、私は推薦入試で不合格ののち、同じ大学に前期入試で合格しました。前期入試で合格できた要因は推薦入試後の過ごし方だと考えています。私は推薦入試の合格発表まで、受かっていたらラッキーという気持ちで二次試験に向けて学習をしていました。もしそこで、ソワソワした気分で講習を受けていたら、前期入試で受かっていたかわかりません。また、そのような心構えでいたため、不合格だと分かったその日のうちに切り替えることができました。何かに挑戦することは決してマイナスになることはないです。むしろプラスになります。挑戦することに恐れているのは、おそらく周りの環境に影響されていると思います。私も以前は挑戦することに不安でした。しかし、いざやってみれば周りも応援してくれます。また、何かに一生懸命取り組んでいる人を見たら応援したくなります。お互いの支えがあるからこそ、良い結果が出ます。

精一杯夢に向かって、挑戦してください。応援しています！

六ヶ所村役場合格

私が公務員になると決めたのは2年生の秋頃です。担任の先生から「今からだと人一倍勉強しないとイケない」と言われました。私は、公務員試験に向けての勉強に一生懸命取り組もうと心に決めました。そこで書店に行き、「高校生向け公務員問題集」や「公務員向けの一般常識」を何冊か買い、勉強に取り組みました。3年生になると毎朝、適性検査の問題を解いて練習しました。公務員を受ける人は私以外にもいて、一緒に練習することでお互いを高め合うことができました。また、放課後に何回か公務員専門学校の先生が来て下さり、講習を受けました。先生は、適性検査の練習は1人で取り組むより大勢で取り組んだ方が点数が伸びるとおっしゃっていました。家では模擬試験を持ち帰り、時間をはかって力試しに解きました。3年生から習う政治・経済や、理系で習う地理等が出題されるため、満遍なく勉強することの大変さを知りました。

夏休みに入り、アレック専門学校の公務員講習会に参加しました。特に私は数的推理、判断推理を強化しました。講習会は午前で終わるので、その後は学校に行き、自分で苦手な分野を勉強しました。

1次試験では勉強したものに似た問題が出題されました。特に国家公務員試験は思った以上に難しく作られていました。面接では最初はスラスラ答えることが出来ずに、顔も固まっていました。私は人と話す事が苦手だったので、先生との面接練習をする前に数回友達に相手をしてもらい、徐々に話せるようになりました。2次試験当日には笑顔を忘れずに最後まで話し続けることが出来ました。作文は課題が当日にならないと分からないので、文章構成を頭に入れて試験に臨みました。

やっておけば良かったと思うことは数的推理です。苦手にしてきたためあまり手をつけずに試験に臨んでしまいました。たとえ苦手でも諦めずにやるのが大切だと思います。また、学校で習わない分野がたくさん出題されるので、頭を休めながらも勉強に取り組む事が一番重要なことだと思います。

これからは社会の厳しさを学びながら仕事に取り組んで行きたいと考えています。

